

執筆者略歴（掲載順）

潘 亮 (Pan Liang)

筑波大学人文社会科学系教授

筑波大学大学院国際政治経済学研究科博士課程修了、博士（国際政治経済学）。研究業績に、*The United Nations in Japan's Foreign and Security Policymaking 1945-1992* (Harvard University Press, 2006)。

『日本の国連外交―戦前から現代まで―』（名古屋大学出版会、二〇二四年）など。

村田 省一 (むらた しょういち)

外交史料館期間業務職員（『日本外交文書』編纂室）

神戸大学大学院文化科学研究科社会文化専攻博士課程修了、博士（学術）研究業績に「一九三〇年代における上海越界築路地域の画定と徴税問題について」（森時彦編『二〇世紀中国の社会システム』京都大学人文科学研究所、二〇〇九年）など。

浜岡 鷹行 (はまおか たかゆき)

外交史料館主査（『日本外交文書』編纂室）

筑波大学大学院地域研究科修了。研究業績に「岸信介政権期日米関係と東南アジア開発問題」（慶應義塾大学法学研究会『法学研究』第九二巻第一号、二〇一九年）、『新文書管理システム』導入以後の「外務省公文書管理」（『外交史料館報』第三四号、二〇二一年）など。

秋葉 真紀生 (あきは まきお)

外交史料館期間業務職員（『日本外交文書』編纂室）

学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程修了。専門は第二次世界大戦後の日本の鉄道復興。

## 編集後記

今号では、二〇二五（令和七）年一月三十一日に潘亮教授をお招きして開催した研究会の記事を掲載しました。近年発表された『著書』日本の国連外交』の成果を踏まえて、政治・安全保障面における冷戦期日本の国連外交の取組、さらに国連の組織運営への貢献や国内政治との関係という三つの要素を扱いながら、日本の国連外交の実態と実績、日本側の国連観、日本と国連の関係に作用した要因などを整理し、さらに今後の研究の展望を論じていただきました。

また、展示関係の記事は三点を掲載しました。一つ目は戦後、国連創設八〇年を記念した特別展示「平和国家としての歩み」です。本展示は常設展示室に複製物で展示されているサンフランシスコ平和条約の認証謄本や吉田全権の受諾演説原稿、国連加盟の決議案の原本など、貴重な史料をご覧いただける展示となりました。二つ目は展示室のリニューアルオープン一周年を記念した特別展示「貴重史料から浮かび上がる吉田茂像」です。こちらは当館が所蔵する旧吉田邸に置かれた衝立を中核とする展示でした。記事では衝立に貼られた様々な書簡の内容を紹介しておりますので、是非ご一読ください。最後に活動報告として、大分県立先哲史料館で開催された企画展示「先哲・重光葵」への特別協力に関する記事を掲載しています。今後も各地域の類縁機関と関連する展示を行っていきたくと考えています。

個人原稿は二件を掲載しています。村田職員は、外交史料館が所蔵する南京国民政府期の日本の在中国公使館（大使館）の立地に関する史料を紹介しました。中国の国内情勢の急激な変化は、在外公館をいかなる態勢で、どこに置くべきかという問題を各国に投げかけました。本稿は北京（北平）から南京に日本の公使館（大使館）が移転するま

での日本の動向に関する史料を翻刻・紹介しています。

浜岡主査と秋葉職員との史料紹介は、終戦から間もない時期に作成された調査群「外交資料」の中から、幕末から満洲事変前夜までの日本外交史を通観する「満洲事變ニ於ケル帝國內外情勢ノ部」を翻刻したものです。外務省作成の調査としては珍しい、日本外交の歴史を扱う調査について、その作成意図や背景も合わせて考察しています。

『日本外交文書』の概要は、『平和条約締結に伴う賠償交渉 関係調書集』第一巻の概要を掲載しました。同巻は既刊『平和条約締結に伴う賠償交渉』を内容的に補完する調査を翻刻したもので、ビルマ、インドネシアに対する賠償交渉に関する調査と、各国との賠償交渉の進展に影響した岡崎勝男外務大臣の一九五三（昭和二八）年秋の東南アジア歴訪に関する調査、合計四冊を採録しています。

以上、『外交史料館報』第三九号の概要をご紹介しました。本号刊行にあたり御協力いただいた各位に御礼申し上げます。

〈掲載論文などの論旨は、執筆者個人の見解であって、所属する機関の公式見解ではありません。〉

### 外交史料館報 第三九号

二〇二六（令和八）年三月二四日

編集発行 外務省外交史料館

東京都港区麻布台一―五―三

電話 〇三―三五八五―四五一―

印刷 東京都大田福祉工場

東京都大田区大森西二―二二―二六